



かとう こうこ  
**加藤 晃子 さん** (藤里町根城岱)

『生シイタケ(北研705号)』

積み重ねてきた経験が生んだ、  
 県内外に誇るシイタケ栽培

**経営規模**

水稲…9 ha  
 シイタケ…2棟  
 マイタケ…3棟  
 培養室…1棟  
 大豆…60 a  
 そば…40 a

**引き継がれてきたシイタケ栽培**

昨年の1等賞(JA全国中央会会長賞)からステップアップし、農林水産大臣賞を受賞した、加藤晃子さん。この時期は、夫の博正さんがハウス内の温度調節用の薪集めを行い、シイタケの世話を晃子さんが担当し、夫婦二人三脚で8千個の菌床を栽培しています。菌床栽培を行うようになってから今年で20年目を迎え、これまで全国菌床生産者大会でも毎年表彰さ



れています。

「受賞したシイタケの品種(北研705号)は、昨年からの栽培を始めたもので、これまでの経験を活かし、温度や湿度などに気を配って栽培してきました。特に昨年は生育不良による収量の減少があったので、今年は生育を促すために、菌床ブロックを水に浸けて置く時間を調整したほか、菌床ブロックによってひっくり返すタイミングを変えるなど、様々な取り組みを行いました。」

今回最高賞を受賞したことで嬉しかったのは、これまでの栽培への取組みが間違っていなかったと証明され、親戚や知人からお祝いの言葉を多く頂けたことだそうです。また、地域の先人達が行ってきたシイタケ作りを県内外へPRしたことで、お世話になってきた先輩たちへの恩返しが出来ました。

「正直、農林水産大臣賞を受賞した実感はまだありませんが、これまで以上に高品質なシイタケを栽培しなければいけないというプレッシャーを感じています。どの作物でもそうだと思いますが、栽培で同じことをしても、同じ結果に繋がることはありません。子どもを育てるように、目一杯の愛情をかけながらも過保護にならないよう、柔軟に対応した栽培を行い、それが来年の1等賞3年連続受賞に繋がれば良いと考えています。」